事　業　報　告

“ここ”に焦点を絞った部落問題学習を

2010 年 12 月 18 日に、参加型で学ぶ研究会“参加型で学ぶ”人権・部落問題学習を考える研究会の第４回を開催しました。森実さん（大阪教育大学）を講師に、府内だけでなく各地より 32 人の参加がありました。ＲＡＡＰプログラムの中の部落問題プログラムの体験や、部落問題を取り入れた参加体験型について学びあいました。

【参加者の感想】

○部落問題学習のワークは、「（漫然と）部落問題をなくす」というものではなく、部落問題のココをクリアするものっていうのは、何だかとてもストンときた。

○結婚差別について学校でよく実践されているが違和感があったが、そのことも出て、架空の状況を話し合っても意味がない、その通り！そーなんだ！！と胸のつかえがおりた。

○寝た子を起こすな論は根強いと感じます。実際にどのように取り組んでいけばいいのかヒントがありました。

学びの過程そのものが人権

参加体験型人権・部落問題プログラム（ＲＡＡＰ）を実施できるファシリテーター養成講座を、2011 年 1 月 15 日から 2 月 12 日にかけて 6 日間の日程で開催しました。

参加者は 17 人（人権協会等 2 人、行政関係 7 人、学校関係 4 人、人権啓発推進協議会や個人 4 人）で、ＨＲＣビルを会場に行いました。

講座は、ＲＡＡＰプログラムの体験や実践だけでなく、ファシリテーターのあるべき姿や、実践を支える理論、予想される困難な状況へのケース・スタディなどの内容で行われました。人権学習においては、正しい知識の伝達だけでなく、参加者一人ひとりの存在が認められることが必要であることを学びました。本講座への参加を通して、参加者自身がそのことを実感した 6 日間でした。

【参加者の感想】

○実践と理論がバランスよく組まれ、実践しながら学ぶことができた。

○実践へのフィードバックがあり、ファシリテーターをやっていく上での自信が以前より持てた。

○これまでのファシリテーター講座にはない、細かなことをじっくりていねいに「体験」できた。

○わかっているつもりでいた部落問題についても、思い違いをしていたということや、まちがったことを覚えていたということが再確認できた。

相談の窓（相談者からの声や相談担当者の思いをお届けします）

相談を受けていると、時には相談者から「先生」などと呼ばれることがある。もちろん相談員は「先生」ではない。こちらがいくら気をつけていても、「相談する側」と「相談を受ける側」という精神的な優劣があることは否めない。相談内容によっては具体的な問題解決策を一緒に考え、他の機関に繋げることもある。紹介した先に行かれるかどうか最終的には相談者ご本人が決定されることになる。あくまでも主体は相談者である。解決に至らないこともあり、相談を受けた者も無力感が残るときもある。解決ができ、少しでも気持ちが楽になられた時はこちらも嬉しい。その問題の解決ができたのはご本人の中に内在していた力である。相談員は相談をされる具体内容を的確に聞き取るとこも大切だが、その奥に表現されていないしんどさや辛さという「気持ち」を理解し、受け止めることが大事であり、内在する力を発揮していただく近道だと思う。でも、それが一番難しい。いろんな問題を抱えしんどくなっている相談者さんの気持に少しでも近づけるような相談員となれるよう精進したい。